



令和5年3月15日
校長 原文也
児童数 474名

ぎんなん

学校教育目標「未来を拓く子どもを育てる三瀨小の全人教育」

いよいよ明日は卒業式

昨日、今日と、卒業式のリハーサルを実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として、「密集」を防ぐために式当日は参加できない5年生も一緒に行いました。

私は、今日のリハーサルの前、子どもたちにこのような話をしました。

今から始めるリハーサルは練習ではなく、5年生と6年生でつくる卒業式本番です。今年も、残念ながら5年生は、明日16日の卒業式には参加できません。去年は、今、5年生が座っている所に、6年生が座っていたことだと思います。リハーサルの間、一生懸命頑張ってほとんど動かずに、真剣な表情で卒業生(現中1)を見ていたことでした。去年、6年生が頑張ることができたのは、卒業生が一つ一つの動きを意識しながら、緊張感をもって一生懸命リハーサルに取り組んでいたからです。きっと、卒業生の姿を格好よく思い「1年後には自分もこうなりたい。」「こんな6年生になれるように、これからもっと頑張っていこう。」と憧れや目標をもったことだと思います。5・6年生全員の心を一つにして、リハーサルではなく、今日しかできない5・6年生でつくる卒業式にしましょう。

両日とも、6年生は、これまでの練習の成果を発揮しようと、一人一人が真剣に取り組むことができました。担任の先生から名前を呼ばれた時の返事や呼びかけ、歌、代表の子どもたちの卒業証書の受け取り方、待っている時の姿勢など、様々な場面において一生懸命さが伝わってきました。まさしく、最上級生としてふさわしい姿でした。5年生も真剣そのものでした。背筋をピンと伸ばし、きちんとした姿勢でいすに座り、真剣な表情で、6年生の姿を見ていました。今日は、昨日よりもさらに一人一人の頑張りが伝わってきました。

5・6年生の子どもたちの姿を見ながら、このようにして、148年もの歴史ある三瀨小学校の「伝統」がつくられているのだと感じたリハーサルでした。

すでに5年生は、最上級生に向けて、様々なことに取り組んでいます。3日(金)の「6年生を送る会」では、事前の準備や練習から当日の運営まで、一人一人が自分の役割を責任もって果たし、コロナ禍で様々な制約がある中、6年生のために感動ある心温まる集会を実施することができました。委員会活動や登校班なども、6年生からしっかりと引き継いで頑張っています。6年生が卒業したら、自分たちが三瀨小学校を引っ張っていく最上級生になることを自覚した言動がいろいろな場面で見られます。もちろん、卒業式の準備も5年生が中心となって進めてきました。リハーサルに参加することを通して、さらに最上級生に向けてやる気が高まったことだと思います。

さあ、いよいよ明日は卒業式。6年生は、参加できない5年生の思いもしっかり受け止めて式に臨んでください。6年生一人一人がかけがえのない主役です。周りの人たちに過度に合わせる必要はありません。一人一人が主役ですから、これまで卒業式に向けて頑張ってきたことを自信にして、自分らしさを思いっきり表現してください。そして、三瀨小学校の最上級生として、これまでで最高の「かかわり合い高め合う」姿を見せてください。

6年生の保護者の皆様、この6年間ですっかり成長したお子さんの姿にご期待ください。



自己評価及び学校関係者評価結果のお知らせ

本年度の重点目標を「つながる学びを楽しむ子どもの育成」と設定し、全職員で目標達成を目指して取り組んできました。地域学校協議会委員の皆様から様々なご意見やご助言(学校関係者評価)をいただきましたので、お知らせいたします。「ぎんなん」No.12でお知らせしました保護者アンケートの結果とあわせて、この自己評価や学校関係者評価の結果を次年度に向けて本校の教育活動に生かしていきたいと思っております。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【自己評価】4できた 3だいたいできた 2あまりできなかった 1できなかった

観点	自己評価	学校関係者評価
学びをつなぐ授業	2	<ul style="list-style-type: none"> 友達に自分の考えを伝えることができる子どもが多い。今後、根拠を発言したり、不明な点を尋ねたりする力を身につけてほしい。 自分の考えや思いを伝えることは、日常生活でも大切なことだが、聞く態度や聞く力を身につけることも大切だと思う。 授業や家庭学習でクロムブックを使用する回数を増やし、どんな学習を行っているのか、保護者も把握できるようにする。 ほとんどの子どもがICTを活用することができている。タイピング大会を実施するなど、タイピングに力を入れてほしい。
授業	2	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間「めあて」のある授業を実施し、学習内容の明確化を図る必要がある。 外国語の学習が楽しいと感じている子どもが多い。個人差が大きいと思うので、そうではない子どもへの手厚い支援が必要。
楽しい学校	3	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が好き」と答えた子どもの割合が高いのは素晴らしい。 不登校やいじめの原因などの分析を丁寧に行い、子どもを取り巻く環境を十分に把握した上での対応が必要である。 一つ一つの事案を複数の目で注意深く見ていく必要がある。
笑顔の先生	4	<ul style="list-style-type: none"> 「先生は分かるまで教えてくれる」と感じている子どもが多いのは、先生への信頼度が高いことの表れと言える。 力量アップのため研修に取り組み、しかも、子どもたちにしっかり関わってくださる先生が多いことに感謝している。 先生方の板書が気になる。(構造的な板書の工夫、チョークの使い方、文字の丁寧さ、書き順など)
協働する学校	3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと向き合う時間の確保ができている先生の割合が、目標を上回っている。先生方の努力の成果だと思う。 児童数が増えているので、子ども一人一人に目を配ることができる体制づくりに努めてほしい。
地域学校協議会提言①	3	<ul style="list-style-type: none"> 帰ったらずぐに学習している子どもが増えている。生活リズムが定着し、家庭での学習環境がよくなっていることは喜ばしい。 「自学」を充実させ、確かな基礎基本の定着とその上に立った個性の伸長を図ってほしい。
家庭	4	<ul style="list-style-type: none"> テレビを消して学習することが各家庭に浸透してきていることはとても素晴らしい。 子どもが学習している時、周りの大人は新聞を読んだり読書をしたりして学習に集中できる雰囲気をつくる必要がある。 ゲームやスマホの害を周りの大人が発信し続けることが大切。
地域	2	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同研修会は意義深いと思う。 地域の人に、小中学生の人権に対する考えや新鮮な感覚をもっと知ってもらおう方法を考える必要がある。